

教育目標

- 確かな学力
 - 豊かな心
 - 健やかな体
- を持つ生徒の育成



喜多方三中
学校だより

第24号

平成28年 1月 8日
文責：佐久間 雄彦

平成27年度 第三学期始業式 式辞

新年明けましておめでとうございます。例年になく、積雪のない年末年始でしたが、新しい年を迎え、さらに第三学期という新しい学期を迎えました。新しい気持ちと共に、決意も新たにすることができます。終業式で話した、平成28年の、そして第三学期の目標はしっかり立てられたでしょうか。

三学期は授業日数が一番短い学期です。2月は「逃げる」、3月は「去る」といわれますがこの短い期間に、なすべきことは山ほどあります。特に3年生は、中学生としてそして義務教育の最後のまとめと、進路実現という人生で大切な時期を迎えています。人生の階段をのぼる大切な時です。気持ちが改まった時、自分の夢や目標、そして決意も生まれてくるものです。何をしたいのか、何ができるかを考え、判断し、決めた自分の目標をしっかり実践して行ってほしいと思います。

以前、ある中学生が新聞に投稿した記事を見つけました。一部を紹介したいと思います。「人生は、積み木のようなものです。だから、ていねいに積み上げていきたいです。私は今、その途中にいるのだと思います。しかし、ここで手を抜いて勉強しないと、受験に失敗し、その積み木は崩れてしまいます。3月には今の自分よりも、はるかに高くなった心の積み木と一緒に、満面の笑みで、この中学校を卒業したいと思っています。」というものでした。この3ヶ月間の仕上げの時期、この中学生のように、三中生一人一人が最後まで同じ気持ちでいてほしいと思います。

最強の敵は自分自身の中にあると言われます。自分自身という強敵に打ち勝ってこそ、はじめて結果がついてくるようです。「もうこの辺で止めようかな、いやもう少し頑張ろう、でも、もうがんばったから止めようか、そうだ、あと1時間だけ頑張ろう、そうしよう。」というように、自分で自分を励まし、さらに前進することが大切です。自分の中にもう一人の自分をもつ事により、自己を見つめ、自問自答し、自己を確立させることが大切です。

1年生、2年生、3年生共に、これからは、短期決戦です。集中力を高め、悔いの残らないよう強い意志と、たゆまぬ努力をして、一日一日を大切にしてほしいと思います。皆さんの活躍を心から期待して、式辞といたします。

平成28年1月8日

喜多方市立第三中学校長 佐久間 雄彦